

ゆとり世代の芽吹き

■2人の若者

8月27日、3年ぶりに実施されたにかほ市総合防災訓練で防災士 斉藤亜希さん（にかほ市出身）と東日本大震災の語り部 菊池のどかさん（釜石市出身）の2人の若者によるオンライン対談が行われました。

彼女たちが現在の活動に取り組むきっかけになったのは東日本大震災です。震災当時中学二年生だった2人は、自らの体験と経験から「震災を風化させてはいけない」「人々の防災意識を高めていかなければならない」という強い意思をもって防災の啓発活動に取り組みはじめました。彼女たちと接してみても感心するのは、この公益性の高い活動を、誰かがではなく、自分たちがやるものとして自然体で捉えているところです。

■最近の若い人たち

以前のコラムでも書きましたが、近年、社会課題をビジネスで解決しようという若者たちが増えています。20代で起業する人も多く、中には学生時代から会社をおこす若者も目立っています。また起業ではなく、NPO法人に加わるなどしてボランティア活動に積極的に参加する若者も増えています。

近頃の私の疑問に、「なぜ多くの若者が社会的課題を強く意識するのか？」があります。思ったのは、これほど多くの若者に同じ価値観を抱かせるには集団に対する働きかけがあったはずだということです。そこで私はこの年代の若者たち

の教育環境に着目してみました。するとある言葉が見えてきました。それは「ゆとり教育」でした。

■「ゆとり教育」とは？

ゆとり教育とは、2002年から小・中学校の義務教育を中心に採用された教育方針で、それまでの教育が子どもたちからゆとりを奪っているとして、授業時間を大幅に削減することで詰め込み教育からの脱却を図ろうとしたものです。ゆとり教育が目指したのは、激変する社会を生き抜く力、いわゆる「生きる力」を育むことでした。

一方、ゆとり教育により教科学習の時間が大幅に削減されたことで、学習内容も大きく削られてきました。例えば円周率は30代以上の人は円周率は3・14が当然です。ですが、ゆとり教育では円周率は3と教えられました。ゆとり教育が学力低下を招くと批判されたのはこういう理由によります。結局、この心配は払拭されず、ゆとり教育は10年で幕を下ろすことになりました。ちなみに「ゆとり世代」とはこの期間に教育を受けた若者たちの総称です。

他方で、ゆとり教育の中で新たに取入れられた授業もありました。それは「総合的な学習の時間」です。この総合的な学習の時間の目的は「自分で考え行動する力」を養うことにありました。農業体験や地域の人との交流、あるいはボランティア活動への参加などを通じて自ら考え行動することを身に付けさせよ

「幸せのミルク」を一緒に作りましょう！

土田牧場は、昭和63年に大自然そのままの中山に「仁賀保高原 土田牧場」として始めました。

牛舎では、本物のおいしさと栄養豊富な牛乳を作るため、ジャージー牛を飼育しています。1年をとおして土田牧場の牧草をあげ、手間と時間をかけています。毎日朝夕に2度の搾乳、4棟ある牛舎の掃除とエサやりが主な業務です。毎月のように出産に立ち会うため、子牛の世話もあります。販売している製品は100%牧場の牛から作られ、そのうち乳製品は牧場内の工場で製品になるため、全ての工程に関われることもとても贅沢なことだと思っています。作業一つひとつにこだわりを持って仕事をしてもハードですが、お客さんの喜ぶ顔を見るとやりがいを感じます。ミルクハウスでは、みんなで声を掛け合い、連休など特に忙しい時期にはそれぞれの持ち場を越えチームワーク良く牧場全体で対応しています。全ての商品が美味しいので自信を持っておすすめできますし、初めてのお客さんやリピーターさんからも「おいしい！」と声をかけてもらうと、「そうでしょ！」と嬉しくなります。休日や天気の良い夏場はお客さんが多いのでシーズン中の休暇は平日が多いですが、冬期間は土日でも取りやすいです。土田牧場の製品が喜ばれるのは、牛たちが幸せな証です。牧場の自然と食は五感を豊かにします。人々の目的や話題となり、希望が生まれるような場所でありたいと思っています。仁賀保高原は厳しくも清々しく、気持ちの良いところです。大自然の中でジャージー牛に囲まれ、一緒に働きませんか。

企業情報

昭和63年設立。牛の飼育と乳製品の生産・販売、軽食の提供を主とし経営しています。ミニ動物園のウサギやヤギは昭和の頃の農家には自然にいた動物たちで、子どもたちに命を感じてもらいたく飼育しています。ジャージー種乳牛はミルクがおいしく、タンパク質やカルシウムなどの栄養分が多いのが特徴で、牧草によって放牧飼育しています。搾乳した生乳は牧場内の加工工場低温殺菌法により処理し、牛乳やヨーグルト、チーズとして販売しています。場長が学んだ清里農業学校創設者ポール校長の「最善を尽くせ。そして一流であれ。」を胸に、皆さんの健康づくりに役立つ製品を提供していきます。

▶所在地 にかほ市馬場山冬師山4-6
▶事業内容 ミルクハウス：接客、販売、軽食の提供
牛舎担当：搾乳、餌やり、掃除
▶従業員数 7人(うち男4人・女3人)
▶電話 0184-36-2348
▶Eメール tuchida.bokujou@gmail.com
▶ホームページ tsuchidabokujou.web.fc2.com

「にかほbizまるっと！」に掲載する事業所を募集しています！
若者や女性の採用に積極的な事業所やイチ押しの魅力などを持っている事業所を紹介します。申し込みは商工政策課(☎43-7600)まで！

にかほ一む
にかほ市移住・Uターン・お仕事支援ポータルサイト



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

